

高鍋町の先賢と文化財

元来、「神楽」は日々を平穩無事に暮らせることへの感謝や祈りの意味を込めて、長い年月をかけて、それぞれの地域に受け継がれてきました。宮崎県内では、300座以上の神楽があると言われています。

「高鍋神楽」とは、旧高鍋藩城附地の新納院と呼ばれた地域に受け継がれている神楽の総称で、現在の児湯郡高鍋町、新富町（北部）、木城町、川南町、都農町の五町にわたっています。ここには六社連合大神事という名称で行われている神楽、三納代神楽系、比木神楽系、都農神楽系があり、受け継がれ今に伝えられています。

比木神社（木城町）



八坂神社（高鍋町）



白鬚神社（川南町）



高鍋神楽の魅力 | Attraction of Takanabe Kagura

高鍋神楽の特徴

高鍋神楽の特徴は、六社連合という方式をふくんでいるだけでなく、他にも「里神楽」という他の神社の祭礼に依頼されての神楽、「お里まわり」などの名を持つ神幸祭に伴っての神楽、比木神社から神門神社への神幸祭である「神門神幸祭（師走祭り）」などがあり、現在も行われています。

六社連合大神事は、六社が順番に当番を務める神楽奉納ですが、「大神事」とも呼ばれており、明治時代の記録からは、江戸時代にもこの方式で行われていたのを知ることができます。これは、全国的にみても稀な方式といえます。奉納神楽の演目（番付）数は三十ほどですが、この中には複雑な内容をもつ「大神神楽（神武神楽）」や、翁面を付けての「寿の舞」など、県内他地域の神楽と比較しても特徴的と言える演目があります。

平田神社（川南町）



三納代八幡神社（新富町）



愛宕神社（高鍋町）



愛宕大神

神

高鍋東中学校・高鍋西中学校合同で行われた鑑賞教室での一幕



「かななぎ」

日本神話に登場する天鈿女命（アメノウズメ）をモチーフにした舞。芸能をつかさどる神として有名で、日本神話で天照大神（アマテラス）が岩屋に隠れた際、その前で踊って大神を誘いだした女神として知られています。



「御笠練舞」

五穀豊穡を祈る演目で、観客から参加を募って大人数で舞う神楽です。参加者は神楽面を被り、前の人の腰に巻いてある紐を握って一列に連なり、飛び跳ねたり、寝転んだりします。

高鍋神楽の魅力

高鍋神楽は、かかとやつま先を細かく使う足の運び、歌舞伎や能楽のように体や肩・頭の振り様が多く、腰を低く落として舞う「座舞」「居舞」の所作が多いのが特徴です。舞様は高尚優美で勇壮活発な舞が魅力と評されます。

演目の中には、一時間以上舞い続ける神楽や、夜神楽を観にきた方から参加を募って一緒に舞う演目「御笠練舞」など、33演目の中でも、それぞれに特色があります。また、神楽は男性が舞うものという地域もあるなかで、高鍋神楽は女性の舞手もあり、そのことも見どころのひとつといえます。

舞は「序・破・急」の3段編成からなります。

- 序の段・・・場を清め、神々を招き加護を願う
- 破の段・・・庶民の祈りを表現し、変化にとんだ番付が続く
- 急の段・・・日本神話に登場する有名な岩戸開き

高鍋神楽の魅力 | Attraction of Takanabe Kagura

六社連合大神事のなりたち

江戸時代、初代藩主秋月種長公の姫君が原因不明の病を患い、回復の兆しも手だても見つからなかった中、藩に仕えていた大寺余惣工門（おおてらよそえもん）という人物が木城町の比木神社へ心を込めて願掛けのお参りをし続けたところ、病状が快方へ向かい全快したのです。これを非常に喜んだ種長公は御礼参拝をされ、終夜御神楽を奉納されました。これが「一神事」のはじまりと言われています。

明治時代を迎えると、廃藩置県により政が藩から県に移行し、藩政時代に受けていた奨励保護もなくなり、神仏分離運動が高揚し、衰微の危機が差し迫る中で、比木神社一社のみで神事を続けることは困難になるのではないかとこの危惧があり、旧藩領内の郷社である六社が年番で神事を行うことが定められたのです。これが、六社連合大神事の始まりとなります。

現在の六社連合大神事

その年の役目を担う神社は、境内に、シイの枝葉を用いて神籬（ひもろぎ）と呼ばれる大きな山を仕立てます。しめ縄をはり、御幣装飾物を飾って齋場を作っていきます。各社にとつては6年に1度の大行事となり、当日は神事を執り行ったのち、夜を徹して神楽を奉納します。



へいだ 神籬(平田神社での六社連合大神事)

次回の六社連合大神事

2025年2月8・9日に高鍋町の愛宕神社にて夜神楽の奉納が予定されています。

◎お問合せ先・・・高鍋町教育委員会 社会教育課 文化係

電話0983・23・3326

比木大神